

# 未来のリーダーとして

棚倉中学校 3年

須田 大健

東日本大震災が起こってから七年もが経過しました。あの震災による地震と津波は、多くの人々の命を奪い、同時に福島の人々の希望も奪いました。それでも私たちは、日々を前向きに生きようと努力して、福島は本来の姿を取り戻しつつあります。

僕を含めた福島の人々は、当時の記憶が今でもはっきりと残っているのでしょうか。ひょっとしたら、それらは少しずつ薄れてきているのかもしれないと僕は思います。多くの人が、毎日の暮らしに満足し、当たり前前の方が当たり前前ができる。その大切さを忘れているからでしょう。確かに「復旧」はかなり進んだかもしれませんが、「復興」という視点で見れば、まだまだ途中といえます。

そもそも、復興という言葉には「一度勢いを失ったものを再び盛んにする」という意味と、「さらにそれらを発展させ、より盛んにする」の二つがあります。二つ目をこの福島の地で実現するためにはいったい何が必要なのだろうか。僕は真剣に考えてみることにしました。

僕が何よりも大事だと考えるのは、今後の福島の未来を担っていく立場の、僕達中学生の「人材」です。でも「いきなりそんなことを言われたって、何をすべきかわからないじゃないか」と多くの方は思うことでしょう。けれども、何か特別なことをしなければいけないと考える必要はありません。今私達がやるべきことは、とにかく勉強をして学ぶことです。そして様々なことにも挑戦し、将来への力をつけることです。これならきっと誰もがができるはず。普通の学校の授業では、将来必ず役に立つことを学んでいます。だからこそそれらに手を抜かず取り組むことにより、一人の人材としての能力を身に付けることができます。

そうしていくことによって、人材が多くあつまれば当然、全員をまとめる「リーダー」の存在が欠かせなくなってきました。

僕は、中一の時に、「プラチナ未来人材育成塾@会津」に参加しました。この塾では全国各地から集まった中学生の仲間と共に、12人の方の講義を聞き、「リーダー」について考えました。この時の講義で得たことで、「リーダーには誰もがなれる」というものがあります。多くの方はリーダーの役割に、「難しいからできない」「私には無理だ」といった先入観を抱きがちです。皆さんの中にも、学校生活でリーダーを選ぶ機会を避けてきた経験がある人もいます。しかし実際は、決して難しくありません。

僕自身、部長と生徒会長の二つを経験しています。当初は忙しさと、両立の大変さに苦労しましたが、慣れると、楽しい上に多くの人に信頼され、自信が持てるようになりました。僕は今、この仕事に誇りを持って取り組んでいます。

場面は違えども、僕達中学生がリーダーを経験し、そのうえで自分の長所を見つけることは未来の福島で活躍することに役立つと思います。数年後に、僕達の多くが各分野で福島の復興に貢献していることを心から願います。僕自身もそのうちの一人になれるよう目標に向かって日々惜しみなく努力していこうと思います。

果たして、十年後の福島はどう変わっているのでしょうか。きっと、今よりも大きく発展していることでしょう。僕は、自分の目標、夢を実現するために一度、福島から離れることになっても、いつか戻ってきたいです。そして、福島を支える一人のリーダーになりたいと思います。そこまでの道のりは決して楽なわけではないでしょう。一步一步、挑戦と成長を重ね、「未来人材」として僕は進んでいきます。